



CDR Analysis and Reporting の基本操作

Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールは、QoS (Quality of Service)、トラフィック、ユーザのコール量、課金、およびゲートウェイに関する情報のレポートを生成します。

この章は次の内容で構成されています。

- [CAR のアクティブ化 \(P.2-2\)](#)
- [CDR のサービス パラメータの設定 \(P.2-3\)](#)
- [CDR エンタープライズ パラメータの設定 \(P.2-4\)](#)
- [CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定 \(P.2-5\)](#)
- [CAR へのログイン \(P.2-7\)](#)
- [CAR からのログアウト \(P.2-9\)](#)
- [CAR マニュアルのオンラインヘルプへのアクセス \(P.2-9\)](#)
- [関連項目 \(P.2-10\)](#)

CAR のアクティブ化

CAR は一連の補完サービスで構成されており、これらのサービスは、Cisco Unified Serviceability の [Service Activation] ウィンドウでアクティブにすることができます。CAR を Cisco Unified Serviceability の [Tools] メニューから起動できるようにするには、次の手順に従って、CAR サービスをあらかじめアクティブにしておく必要があります。

手順

ステップ 1 [Tools] > [Service Activation] を選択します。

[Service Activation] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Servers] ドロップダウンリストボックスから、クラスター サーバ名の最初のノードを選択します。

選択したサーバのサービス名、サービス タイプ、およびサービスのアクティベーション ステータスがウィンドウに表示されます。



(注) CAR サービスをアクティブにするのは、最初のノード上のみです。このノードに、Cisco Unified Communications Manager データベースが常駐します。

ステップ 3 次の CDR サービスの隣にあるチェックボックスをオンにします。

- Cisco SOAP-CDRonDemand Service (オプション)。HTTPS または SOAP インターフェイスを通じて CDR データにアクセスするサードパーティ製の課金アプリケーションを使用している場合は、このサービスをアクティブにします。
- Cisco CAR Scheduler
- Cisco CAR Web Service



ヒント CDR サービスの隣にあるチェックボックスをオフにし、[Save] をクリックしてサービスを非アクティブにします。Cisco CAR Web Service を非アクティブにすると、Cisco Unified Serviceability の [Tools] メニューから CAR が削除されます。

ステップ 4 必要な変更が完了したら、[Save] をクリックします。

追加情報

P.2-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

CDR のサービス パラメータの設定

CAR は、CAR および CDR のレポートを生成するために、CDR レコードと CMR レコードに含まれているデータを利用しています。CAR では、CDR リポジトリ ノード (最初のノード) 上のフラットファイルで CDR レコードが使用可能である必要があります。CDR レコードを生成し、特定のシステムで使用できるようにするには、Cisco Unified Communications Manager の一定のサービス パラメータを有効にする必要があります。

それらのパラメータは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで設定できます。[サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを開き、[システム] > [サービスパラメータ] を選択します。[詳細設定] ボタンを選択して、サービス パラメータの完全なリストを表示します。次に示すサービス パラメータは、CDR/CMR レコードに影響を及ぼすことがあります。

- System Parameters
 - **CDR Enabled Flag** : CDR を生成するかどうかを決定します。有効な値は、True (CDR を生成する) または False (CDR を生成しない) です。この必須フィールドのデフォルト値は False です。クラスタ内のすべてのサーバで、このパラメータを有効にします。
 - **CDR Log Calls With Zero Duration Flag** : 接続されなかったコール、または接続時間が 1 秒未満のコールに関する CDR のロギングを有効または無効にします。Cisco Unified Communications Manager は、このフラグの設定に関係なく、失敗したコール (転送ディレクティブの失敗や使用中のトランクを経由しようとしたコールなどが原因で結果的にリオーダーになったコール) をログに記録します。これは必須フィールドです。デフォルト値は False です。
- Clusterwide Parameters (Device - General)
 - **Call Diagnostics Enabled** : 呼管理レコード (CMR、診断レコードとも呼ばれる) を生成するかどうかを決定します。有効な値は Disabled (CMR を生成しない)、Enabled Only When CDR Enabled Flag is True (CDR Enabled Flag サービス パラメータが True に設定されている場合のみ CMR を生成する)、または Enabled Regardless of CDR Enabled Flag (CDR Enabled Flag サービス パラメータの設定値に関係なく CMR を生成する) です。これは必須フィールドです。デフォルト値は Disabled です。
 - **Display FAC in CDR** : コールに関連付けられた Forced Authorization Code (FAC) を CDR に表示するかどうかを決定します。この必須フィールドの有効な値は True (CDR に FAC を表示する) または False (CDR に FAC を表示しない) です。デフォルト値は False です。
 - **Show Line Group Member DN in finalCalledPartyNumber CDR Fields** : CDR の finalCalledPartyNumber フィールドにコールに応答した回線グループ メンバの電話番号 (DN) またはハントパイロット DN を表示するかどうかを決定します。有効な値は、True (CDR の finalCalledPartyNumber にコールに応答した電話の DN を表示する) または False (CDR の finalCalledPartyNumber にハントパイロット DN を表示する) です。このパラメータは、機能インタラクション (転送、会議、コールパークなど) が含まれない、ハントリストを介してルーティングされる基本コールにのみ適用されます。機能インタラクションが含まれるコールの場合は、このパラメータの設定値に関係なく、ハントパイロット DN が finalCalledPartyNumber フィールドに表示されます。このパラメータは Cisco Unified Communications Manager Attendant Console には適用されません。この必須フィールドのデフォルト値は False です。
- Clusterwide Parameters (Device - Phone)
 - **Add Incoming Number Prefix to CDR** : Cisco Unified Communications Manager が、着信プレフィックス (National Number Prefix、International Number Prefix、Subscriber Number Prefix、および Unknown Number Prefix の各サービス パラメータで指定) をコールの CDR 内の発呼側番号に追加するかどうかを決定します。コールの送信先がゲートウェイの場合は、このパラメータが有効でも、Cisco Unified Communications Manager は CDR にプレフィックスを追加しません。この必須フィールドのデフォルト値は False です。

CDR エンタープライズパラメータの設定

これらの CDR パラメータは、Cisco Communications Manager の管理ページの [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウで設定します。[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager を開き、[システム] > [エンタープライズパラメータ] を選択します。

- CDR Parameters
 - **CDR File Time Interval** : CDR データを収集する時間間隔を指定します。たとえば、この値を 1 に設定すると、各ファイルには 1 分間の CDR データ（有効に設定されている場合は、CDR と CMR）が格納されます。CDR データベースは、その間隔が終了するまで、各ファイルのデータを受信しません。したがって、このパラメータに設定する間隔を決める際には、どのくらい早く CDR データにアクセスする必要があるかを考慮してください。たとえば、このパラメータを 60 に設定すると、各ファイルには 60 分間に相当するデータが格納されますが、60 分経過してレコードが CDR データベースに書き込まれるまで、そのデータは使用できません。デフォルト値は 1 です。最小値は 1 で、最大値は 1440 です。この必須フィールドの単位は分です。
 - **Cluster ID** : クラスタの一意識別子を指定します。このパラメータは CDR で使用されるため、複数のクラスタから収集された CDR をソースまでトレースできます。デフォルト値は [StandAloneCluster] です。最大長は 50 文字で、A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9、. (ピリオド)、- (ハイフン) で構成される有効なクラスタ ID を指定します。
- CCM Web Services Parameters
 - **Allowed CDRonDemand get_file Queries Per Minute** : 1 分あたりにシステムで許容される、CDRonDemand get_file クエリーの最大数を指定します。この必須フィールドのデフォルト値は 10 です。最小値は 1 で、最大値は 20 です。
 - **Allowed CDRonDemand get_file_list Queries Per Minute** : 1 分あたりにシステムで許容される、CDRonDemand get_file_list クエリーの最大数を指定します。この必須フィールドのデフォルト値は 20 です。最小値は 1 で、最大値は 40 です。

CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定

どのユーザ（アプリケーション ユーザを含む）でも CAR 管理者になることができます。ただし、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、該当のエンド ユーザを Cisco CAR 管理者 ユーザ グループ（Standard CAR Admin Users）に追加する必要があります。CAR 管理者として認識されたエンド ユーザは、CAR システムに対するフル コントロール権限を持っています。管理者はシステムとレポートに関連するすべてのパラメータを変更できます。CAR 管理者として認識されていないエンド ユーザは、指定された CAR レポートにのみアクセスできます。



(注)

CAR 管理者になったアプリケーション ユーザは、個別の課金情報レポートを除き、すべてのレポートを設定できます。CAR 管理者になったアプリケーション ユーザは、エンド ユーザ（CCM ユーザ）のウィンドウにはアクセスできません。アプリケーション ユーザには、メール ID がないため、CAR 通知が送信されません。



ヒント

CAR を使用するには、少なくとも 1 名の CAR 管理者が Cisco Unified Communications Manager データベースに存在している必要があります。

CAR にログインするには、管理特権を持っている CAR ユーザを CAR にあらかじめ 1 名以上設定しておく必要があります。CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ユーザ管理] > [エンドユーザ] を選択して、エンド ユーザを追加します。このタスクの実行方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。マネージャを作成する場合は、[マネージャのユーザ ID (Manager User ID)] フィールドに必ず値を入力してください。



(注)

エンド ユーザの作成後、パスワードテキストボックスの近くにある [クレデンシャルの編集] ボタンをクリックして、ユーザ パスワード クレデンシャルを編集します。[ユーザは次回ログイン時に変更する必要あり (User Must Change at Next Login)] チェックボックスをオフにします。この操作を行わないと、IMS_ERROR_CODE_5 が表示され（「CAR 無効ログオン メッセージ」については表 2-1 を参照）、CAR にログインできなくなります。パスワードを手動でリセットするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインする必要があります。



ヒント

CAR の使用を開始する前に、管理特権を持つ CAR ユーザを CAR に少なくとも 1 名設定しておくことをお勧めします。CAR 管理者を設定していない場合、および別の CAR 管理者を設定する場合は、次の手順に進みます。

ステップ 2 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] を選択して、[検索] をクリックします。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Standard CAR Admin Users] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [グループにエンドユーザを追加] ボタンをクリックします。

ステップ 5 グループに追加するユーザのチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加] をクリックします。

ユーザが、[グループ内のユーザ (Users in Group)] グループ ボックスに表示されます。



ヒント

CAR 管理特権を無効にするには、[グループ内のユーザ (Users in Group)] グループ ボックスに含まれているユーザのチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックします。警告メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。管理特権は、ただちに無効になります。

追加情報

P.2-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

CAR へのログイン

CAR にログインするには、次の手順を実行します。

開始する前に

次の作業を実行します。

- CAR にログインするには、事前に Cisco CAR Web Service と Cisco CAR Scheduler サービスが最初のノードで稼働していることを確認します。これらのサービスをアクティブにすると、[CDR Analysis and Reporting] オプションが Cisco Unified Serviceability の [Tools] メニューに表示されます。サービスをアクティブにする方法の詳細については、P.2-2 の「CAR のアクティブ化」を参照してください。
- P.2-5 の「CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定」の説明に従って、CAR 管理者、マネージャ、およびユーザを設定します。

手順

ステップ 1 CAR にログインするには、次のいずれかの手順を実行します。

- CAR システム管理者のみ : Cisco Unified Serviceability から、[Tools] > [CDR Analysis and Reporting] を選択します。
- CAR のユーザまたは管理者 : Web ブラウザで、<https://<Server-ip/name>:8443/car/Logon.jsp> と入力します。

ステップ 2 CAR のログイン ウィンドウが表示されたら、[User Name] フィールドにユーザ ID を入力します。

ステップ 3 [Password] フィールドに、パスワードを入力します。[Login] をクリックします。

CAR のウィンドウが表示されます。

ユーザ ID またはパスワードが無効の場合、表 2-1 に示すいずれかの Identity Management System (IMS; ID 管理システム) メッセージが表示されます。

表 2-1 CAR 無効ログオン メッセージ

エラー コード	メッセージ
IMS_ERROR_CODE 1	入力されたユーザ名かパスワードが無効です。CAR 管理者または通常のエンドユーザとして CAR にログインしてください。
IMS_ERROR_CODE 2	アカウントが、システム管理者によってロックされています。管理者に問い合わせてください。
IMS_ERROR_CODE 3	アカウントが一時的にロックされています。システム管理者に問い合わせるか、しばらく経ってからもう一度試してください。
IMS_ERROR_CODE 4	アカウントは、アクティビティ不足のために非アクティブになっています。システム管理者に問い合わせてください。
IMS_ERROR_CODE 5	パスワードの有効期限が切れたため、アカウントはロックされています。パスワードをリセットするか、システム管理者に問い合わせてください。
IMS_ERROR_CODE 6	パスワードの有効期限が切れたため、アカウントはロックされています。システム管理者に問い合わせてください。
IMS_ERROR_CODE 7 = ERROR: LDAP_INACTIVE	LDAP 認証を使用するようにシステムが変更されましたが、ユーザはまだ旧データベースに登録されています。システム管理者に問い合わせてください。
IMS_ERROR_CODE 8	アカウントはロックされています。手動でログインし、最初にクレデンシャルを変更する必要があります。Cisco Unified Communications Manager の管理ページからパスワードをリセットするか、システム管理者に問い合わせてください。
IMS_ERROR_CODE UNKNOWN	システム エラー。システム管理者に問い合わせてください。
IMS_EXCEPTION (IMS によって戻された例外) = AUTHENTICATION FAILURE	システム エラーのため、ユーザを認証できません。システム管理者に問い合わせてください。

追加情報

[P.2-10 の「関連項目」](#) を参照してください。

CAR からのログアウト

この項では、CAR からログアウトする方法について説明します。

手順

ステップ 1 CAR のウィンドウで、**[Logout]** を選択します。

ステップ 2 「For security reasons, it is advisable to close the browser window on Logout. Do you want to close the browser window?」というプロンプトメッセージが表示されます。CAR のウィンドウ (ブラウザ) を閉じるには、**[OK]** をクリックします。**[キャンセル]** をクリックすると、CAR のログイン ウィンドウが表示されます。

追加情報

P.2-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス

CAR マニュアルのオンライン ヘルプにアクセスするには、**[Help]** > **[Contents and Index]** (目次) または **[Help]** > **[For this page]** (表示されているページ固有の情報) を選択します。

追加情報

P.2-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [CAR のアクティブ化 \(P.2-2\)](#)
- [CAR 管理者、マネージャ、およびユーザの設定 \(P.2-5\)](#)
- [CAR へのログイン \(P.2-7\)](#)
- [CAR からのログアウト \(P.2-9\)](#)
- [CAR マニュアルのオンライン ヘルプへのアクセス \(P.2-9\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の概要 \(P.1-1\)](#)
- [CAR システムの設定 \(P.3-1\)](#)
- [CAR レポートの設定 \(P.4-1\)](#)
- [CAR ユーザ レポートの設定 \(P.5-1\)](#)
- [CAR システム レポートの設定 \(P.6-1\)](#)
- [CAR デバイス レポートの設定 \(P.7-1\)](#)
- [CDR 検索の設定 \(P.8-1\)](#)
- [CDR/CMR レコードのエクスポートの設定 \(P.9-1\)](#)
- [Cisco 呼詳細レコードについて \(P.10-1\)](#)
- [CAR レポートの結果 \(P.11-1\)](#)